

**2021 年度 大学英語教育学会（JACET）関西支部大会**  
**基調講演、招待ワークショップ、特別講演、インタラクションルーム**  
**JACET Kansai Chapter Conference 2021 Summaries**

**<基調講演/ Keynote Lecture>**

講演タイトル：「国際英語」教育の歴史的経緯と基本的課題

**The Historical Background and Basic Issues of EIL Education**

講師：日野 信行先生（大阪大学）/ Dr. HINO, Nobuyuki (Osaka University)

発表言語：日本語

**Abstract:** 母語話者の言語文化的枠組みを超えた存在として英語をとらえる「国際英語」の考え方には、社会のグローバル化とともに、世界的にいっそう注目されるに至っている。また、この立場を英語教育の実践に応用する試みも盛んになっている。それぞれ重点の異なる EIL (English as an International Language), ELF (English as a Lingua Franca), WE (World Englishes) などの用語にも、出会う機会が増えているであろう。英語教育者にとって重要な概念となったこの「国際英語」に関して、本講演では、歴史的経緯からその本質を探るとともに、英語教育への応用における基本的な課題について考察したい。

講師略歴：大阪大学大学院言語文化研究科教授。博士（言語文化学、大阪大学）。Wiley, Routledge, Springer 等の国際学術出版の editorial/advisory board をつとめる。主な単著として、*EIL education for the Expanding Circle: A Japanese model* (Routledge, 2018 年)。

**<招待ワークショップ/ Invited Workshop>**

講演タイトル：探求型学習から研究型授業への架け橋としての英語と ICT

**English Education With ICT for Bridging Inquiry-Based Learning and Research-Based Course**

講師：木村 修平先生（立命館大学）/ Dr. KIMURA, Syuhei (Ritsumeikan University)

発表言語：日本語

**Abstract:** 学習指導要領の改訂により、初等・中等教育では探求型学習が強力に推進される傾向にある。特に SSH などでは生徒によるプロジェクトの成果発表が英語で行われることも多く、そうした環境では英語教員には英語を教えるだけでなく他科目的教員との連携やファシリテーションといったスキルが求められる。本講演では、探求型学習を経験してきた世代に大学英語教育が何を提供できるのかについて、大学でのサイエンス系専門教員との 10 年以上にわたるコラボレーションにもとづき、研究型授業の可能性を論じる。また、研究型授業を可能にするチャット型コミュニケーションツールやクラウドストレージなどの ICT ツール活用法を参加者によるハンズオンを通じて紹介する。

講師略歴：木村修平 (Dr. KIMURA Syuhei)。立命館大学生命科学部生命情報学科准教授。ミシガン州立大学社会学部卒業、立命館大学大学院言語教育情報研究科修了、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。博士（政策・メディア）。専門は高等英語教育における情報通信技術（ICT）の利活用。立命館大学 4 学部で展開するプロジェクト発信型英語プログラム ([pep-rq.jp](http://pep-rq.jp)) の運営コアメンバーのほか、外国語教育メディア学会（LET）関西支部傘下の電子語学教材開発研究部会部会長を務める。共著に『プロジェクト発信型英語プログラム：自分軸を鍛える「教えない」教育』（北大路書房）、『英語でビブリオバトル実践集』（子どもの未来社）。

**【発表関連情報】**

「Join 関西支部 on Slack」



[https://join.slack.com/t/jacet-kansai/shared\\_invite/zt-v9kbc2w1-D8PX2cVY~kaTKHUVMBBePeg](https://join.slack.com/t/jacet-kansai/shared_invite/zt-v9kbc2w1-D8PX2cVY~kaTKHUVMBBePeg)

(関連サイト)

使い方はこれらのページを参照してください。

NICOA 絵でわかる Slack の使い方！第1回:そもそもどんなもの？メリットは？

<https://jimon.info/series-slack-1st/>

Slack Official サイト

<https://get.slack.help/hc/ja/categories/200111606-Slack-%E3%81%AE%E4%BD%BF%E3%81%84%E6%96%B9>

**<特別講演/ Special Talk>**

講演タイトル：オンラインと対面の話し合い可視化技術とその学習者中心教育への応用

**Visualization Technology of In-Face and Online Discussions and its Applications to Learner-Centered Education**

講師：水本 武志先生（ハイラブル株式会社代表取締役）/ Dr. MIZUMOTO, Takeshi

発表言語：日本語

Abstract: 学習者中心教育が広まる中で、英語教育をはじめとして話し合い活動が広く行われている。通常は複数の話し合いが同時に行われるので、教育者がそれらをすべて聞き取ることは不可能である。そのため評価やフィードバックは印象やテスト等に頼るしかなかった。対面授業でもオンライン授業でも共通の本課題を解決するため、我々は対面とオンラインの両方の話し合いの可視化するクラウドサービス Hylable を開発・運営している。学習者は可視化データを使った振り返りでメタ認知スキルを向上させ、教育者は机間指導・ファシリテーションスキルを向上させている。本講演では Hylable とその効果を述べ、英語教育事例を中心に紹介する。

講師略歴：京大院修了。博士(情報学)。2016年ハイラブル(株)を創業し代表就任。カエル合唱や会話の研究に従事。

**<インタラクションルーム/ Interaction Rooms>**

インタラクション・ルームへようこそ：

コロナ渦が長引く中、今年度も大会をオンライン開催する運びになりました。オンライン学会の意外な利便性に気づかされる一方で、対面学会ならではの談話室でのくつろいだ交流や思いがけない一会のひと時を懐かしく思われている方々もいらっしゃいますかと存じます。そこで、今大会では「インタラクション・ルーム」と銘打ち、肩ひじ張らない意見交換の場をオンラインで再現する試みをすることになりました。ランチタイムにはテーマ別意見交換、基調講演後には茶話会的談話を計画しております。参加に必要な準備はありません。休み時間にふらりと休憩室に立ち寄る気分で、ドリンクを片手に、是非気軽にお越しください。

Welcome to the Interaction Rooms:

With the lingering pandemic, the conference is to be held online again this year. While you may have noticed

the unexpected convenience of online conferences, you may well miss face-to-face conferences, especially the relaxed conversations and serendipitous encounters in the salon room. On that note, we have arranged two time slots named <<Interaction Rooms>> for such casual conversations and exchange of thoughts. The first session, theme-based discussion, is held at lunch break. The second session, free discussion, is held after the plenary. There is no preparation required to participate; feel free to drop by the virtual room during the break time, with a drink in your hand.

以上